

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 19 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520225

研究課題名(和文)画像資料の総合利用による歌舞伎演出の研究

研究課題名(英文)Study of directions in KABUKI dramas based on comprehensive utilization of pictures

研究代表者

河合 眞澄 (KAWAI, MASUMI)

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：00169674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：歌舞伎の役者評判記の挿絵と演目の内容や評文との関係を、一つの演目につき二種の役者評判記が出版されている場合について検討し、異同を見極め、二種が一致する場合は上演実態に近いものであることを推測した。

また、絵入狂言本(挿絵入りの筋書き本)の挿絵や本文も資料として活用し、役者評判記の挿絵は先行して出版された絵入狂言本の挿絵と密接に関係していることを見極め、両者が異なる部分は上演実態を反映して訂正された可能性があることを考察した。

さらに、挿絵の有無などから、当時の役者評判記出版元である八文字屋と江島屋の出版戦略が、速報性と情報量のいずれに重きを置いていたかという点についても考察した。

研究成果の概要(英文)：Illustrations in books about popularity of KABUKI actors have a relation to the contents of the programs for the performance and reviews. In case when two sorts of the books are published, agreement of their contents say the actual conditions on KABUKI dramas. Books about plot of plays with illustrations are very useful in the study of illustrations. Difference between them indicate the corrections based on the actual conditions. Hachimonjiya and Ejimaya, publishers, had strategies. The former attached great importance to the amount of information, and the latter to quick reports.

研究分野：日本近世文学

キーワード：歌舞伎 役者評判記 挿絵 絵入狂言本

1. 研究開始当初の背景

(1) 歌舞伎をはじめとする近世演劇に対する国際的な関心が高まっている現状にあって、近世演劇関係の資料はかなり整備されてきている。しかし、まだ資料紹介の段階にとどまっていたり、既刊資料の利用はいまだ不十分であり、実証的な研究がなされていない。そこで、演劇文化形成という広範な視点から、翻刻された資料等を活用した研究が要求されていた。

(2) 近年、画像資料の研究が重要視されるようになってきている。近世演劇研究においても、画像資料に配慮することは不可欠となっている。しかし、継続的に多数の出版があった役者評判記の挿絵の研究は、いまだ皆無に等しい。絵入狂言本等、他の画像資料についても同様の状況にある。そこで、当時の出版文化を考える上からも、まず役者評判記の挿絵研究に着手することは、喫緊の課題となっていた。

(3) 各大学等の図書館では、所蔵する一次資料をデジタル・アーカイブとして公開することが推進されてきている。大阪府立大学学術情報センター図書館には、近世演劇の重要な一次資料である番付・絵づくしが貴重書として多数収蔵されているが、目録の整備等、公開に向けての作業が進んでいなかった。これはデジタル・データ化して、将来的には公開を目指すべき資料であり、早急にデジタル・データ化して研究者の閲覧希望要求に応える必要があった。

2. 研究の目的

(1) 役者評判記の挿絵を多数収集し、個別の歌舞伎演目の上演実態を推察する資料とする。そのために、画像資料である役者評判記の挿絵の信頼度を考察して行く。

それとともに、役者評判記の挿絵を、絵入狂言本や絵づくし等、他の歌舞伎資料に収められている画像資料と比較検討し、役者評判記の挿絵の位置づけを確実なものとする。

(2) 役者評判記の評文に記述されている歌舞伎演目の内容、絵入狂言本の本文に書かれている演目のあらすじ等を読み込み、挿絵と上演内容との関連を詳細に検討する。それにより、役者評判記の挿絵がどのように上演実態を反映しているかを見極め、江戸時代の歌舞伎の舞台演出等、当時の上演実態を解明する。

(3) 大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵の貴重書である番付・絵づくしを整理し、データペース化して、デジタル・アーカイブとしての公開に備える準備を進める。

さらに、資料の中の画像について、役者評判記の挿絵との関連を中心に考察を

進める。

3. 研究の方法

(1) 役者評判記の挿絵はサイズが小さく細部が見つらいため、拡大資料を作成する(約700点)。

関連する演目の絵入狂言本の影印資料を入手する。

これらの資料を一点ずつ詳細に検討し、役者についての評文や絵入狂言本本文などの文字資料と照らし合わせて、挿絵に描かれている内容が実際に上演されたものかどうかを検討し、信頼度を確定する。

(2) 上記(1)の成果を得るため、研究協力者5名(森谷裕美子・川端咲子・原田麻衣・淵田恵子・松葉涼子)との研究会を定期的実施し、役者評判記の挿絵を検討する。

とくに、同一興行に対して二種の役者評判記が出版されている場合に着目する。二種の比較によって共通する部分を捕捉し、それが実際の上演内容を反映しているものと考えて、どのように演出されていたかを推測する。

(3) 現在の歌舞伎興行における演出を見出し、役者評判記の挿絵に見られる演出を考える手がかりとする。

また、江戸時代以来継承されてきた演出を現代に生かすための手法を確認する。同時に、上演関係資料を収集する。

(4) 大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵の貴重書に含まれている番付・絵づくし類のデジタル・データをプリント・アウトし、目録を整備する。この作業には、研究協力者の助力を得る。

とくに画像資料を抽出して、上記(2)の研究会における資料とする。

4. 研究成果

(1) 同一興行に対して二種が出版されている役者評判記を選び、研究会において挿絵を中心に一点ずつを子細に検討した。その結果、二種の挿絵で構図等が酷似するもの、反転させた絵組になっているものがあることなどが判明した。これらは、従来の研究ではまったく言及のなかった事柄である。

ここから、さらに当時の本屋(出版業者)の出版戦略(刊行時期を急いで先行して売り出すか、後発でも情報量を充実させるかという相違)を具体的に証明することができた。今後は、さらに挿絵の検討を行うことにより、出版文化の中における演劇資料(とくに画像資料)の位置づけを明らかにすることができると思われる。

この内容は、研究代表者が学会発表の一部として取り上げ、論文として2015年に活字化される予定である(印刷中)。

(2) 研究会において、上記(1)の役者評判記に挿絵が掲載されている作品の絵入狂言本を講読し、絵入狂言本の挿絵が役者評判記の挿絵の粉本であることが多いこと、絵入狂言本の板元(出版社)に拘らず役者評判記で挿絵を利用していること等が判明した。

さらに、後発の役者評判記の挿絵に、絵入狂言本の挿絵や先行する役者評判記の挿絵と異なる点が見られる場合は、あえて施した改変であって、上演実態を反映したものと考えられると推測した。これは、従来の研究ではまったく推測されていなかった。

挿絵が上演実態を反映しているという点については、研究代表者が学会発表の一部として取り上げ、論文として2015年に活字化される予定である(印刷中)。

(3) 研究協力者原田麻衣氏の助力により、大阪府立大学学術情報センター図書館所蔵の貴重書に含まれている番付・絵づくし類のデジタル・データをプリント・アウトした。その結果、これらのデータは、すでにデジタル・アーカイブとして公表されている同図書館所蔵の椿亭文庫の番付・絵づくし類と同様に、すみやかに公開するべき資料であると判断した。

当該資料は、試験的に大阪府立大学ハーモニー博物館(WEBミュージアム)に収録し、閲覧の便を図ることとなった。

(4) 研究協力者湊田恵子氏の所属する萩市立美術館において開催された「上方の浮世絵」展を観覧し、同所において研究会を開催して、役者評判記の挿絵と役者絵の関連について検討した。これにより、役者評判記の挿絵と役者絵の関連から、上演実態がさらに詳細に判明する見込みがあり、今後も継続的に役者絵に関する資料を入手して比較検討することを確認した。

(5) 歌舞伎座・新橋演舞場・南座・松竹座等の歌舞伎興行を実見し、とくに古典の演目に注目して現在の歌舞伎の上演実態を調査した。この調査により、役者評判記の挿絵の示す演出を推測する手がかりを多く得たほか、江戸時代から現代に至るまで継承されている演出・趣向を確認した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

河合眞澄、「役者評判記の挿絵 上演実態の反映」、『国語と国文学』、査読有、92巻9号、2015、1-15p

河合眞澄、「役者評判記の戦略 八文字屋と江島屋」、『演劇研究会会報』、査読無、2015、41号、2015、13-19p

森谷裕美子、「道行の文学 三」、『近松研究所紀要』、査読無、25号、2015、67-79p

原田麻衣、「『昔男春日野小町』における「春日野小町」その典拠と作劇法」、『歌舞伎研究と批評』、査読有、52号、2014、71-85p

川端咲子、「浮世草子〔座敷歌舞伎〕」、『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』、査読無、7号、2013、130-135p

河合眞澄、「絵面と作り阿呆」、『国立劇場筋書』、査読無、第282回、2012、18-19p

松葉涼子、「『弥作の鎌腹』初演年次の再検討」、『歌舞伎研究と批評』、査読有、48号、71-88p

[学会発表](計3件)

河合眞澄、役者評判記の挿絵 上演実態の反映 (その二)、演劇研究会、2014年10月25日、同志社大学

河合眞澄、役者評判記の挿絵 上演実態の反映、絵入本学会 絵入本ワークショップVI、2014年07月05日、同朋大学

原田麻衣、「『昔男春日野小町』における春日野小町 その典拠と作劇法」、歌舞伎学会、2013年12月07日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合 眞澄 (KAWAI MASUMI)
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号：00169674

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

森谷 裕美子 (MORIYA YUMIKO)
学習院大学・文学部・非常勤講師

川端 咲子 (KABATA SAKIKO)
神戸女子大学・文学部・非常勤講師

原田 麻衣 (HARADA MAI)
大阪市立大学・文学研究科・博士後期課程

淵田 恵子 (FUCHIDA KEIKO)
萩市立美術館・学芸員

松葉 涼子 (MATSUBA RYOKO)
南山大学・人文学部・特別研究員